



ゆうメール

MAC NEWS

2026年 1月号



## 学校の成績が良かったら将来は安心・・・？

～ なぜ今の時代は“点数だけ”では不十分なのか ～

わが子のテスト結果を見て、「今回はよく頑張ったな」「この調子なら将来も安心」と思う方も多いと思います。もちろん学力はとても大切に、努力が結果として現れることは大きな自信にもつながります。

ただ、近年の教育や採用の現場では、この「学力＝将来の安心」という式が昔ほどストレートには成り立たなくなってきました。

その理由の一つが、企業が行う選考方法（採用試験問題）が変わってきているからです。

かつては「高学歴＝優秀」「知識が多い＝仕事ができる」とみなされがちでした。しかし今はテクノロジーの発達によって、“正解が決まっている問題を早く正確に解く力”だけでは戦えない時代になっています。

正解が一つの時代から、  
“答えが複数ある時代”へ

最近の大手企業の採用試験を見

ると、みなさんも驚くようなユニークな問題が増えています。いくつかご紹介します。

### 【Yahoo Japan】

『「ロングヘアが流行ると牛丼が98円になる。」その間に起こるべき4つの事象を説明せよ』

→ いわゆる「風が吹けば桶屋が儲かる」型の論理展開問題。論理性・発想力・飛躍を埋める力が問われます。

### 【サイボウズ】

「あなたの嫌いな仕事は？  
どうすれば好きになりますか？」  
→ 自己分析の深さ、物事を改善する工夫力を評価。

### 【サイバーエージェント】

「100万円を1週間で使い切る企画を考えて」  
→ 企画力、瞬発力、遊び心も含めた発想力をチェック。

### 【DeNA】

「このゲーム仕様書の不整合をすべて探せ」

→ 論理力・観察力が試される。

### 【リクルート】

「あなたの人生を1枚のスライドにまとめてください」  
→ 構成力、自己PR力、削ぎ落として伝える力。

### 【P&G】

「あなたが歯磨き粉の担当者なら、  
どう“値上げ”して売りますか？」  
→ マーケティングとユーザー視点。

### 【大手商社（社名非公開）】

「あなたは砂漠で目覚める。周りには“象・冷蔵庫・ロープ”しかない。  
合理的な行動は？」  
→ リスク判断＋柔軟な発想。

### 【日本のゲーム会社】（社名非公開）

「“魔王が部下を辞めさせない仕組み”を3つ考えて」  
→ 組織論 × ユーモア × 創造性。

これらを見ていただくと分かるように、「暗記が得意」「計算が速い」だけでは太刀打ちできない時代になっています。

一昔前のように「学力が高い（学歴がある・成績が良い）＝良い企業に入れる」という“一本道”は、すでに存在しないのです。

では、子どもたちに今必要なのは何か？

これらの採用試験に共通しているのは、“正解のない問いを、自分なりに考える力”を見ているという点です。

・筋道を立てる力  
・説明する力  
・新しい視点を出す力  
・常識を疑う力  
・遊び心を発揮する力  
・問題を「発見する」力

こうした数字には表しにくい能力、つまり最近よく話題に上がっている“非認知能力”が、今の社会では本当に求められているのです。

そしてこれは、小さい頃からの経験の積み重ねで育つ力であり、テスト前だけの一夜漬け的な勉強では身につけません。

育脳寺子屋が  
大切にしていること

日頃からわが子の解き終えた教材を見て下さっている保護者さんはもうお分かりだと思いますが、育脳寺子屋では、まさにこの「答えが一つではない問題」に日常的に取り組むことで、上記のような力を育てています。

丸付けの際は○・×を付けるだ

けではなく「どうしてそう思ったの？」「どうしてその答えを選んだの？」と理由を自分の言葉で説明してもらいます。

極論、答えが合っているか間違っているかはどうでもよくて、小学生の頃から『答えが一つではない問題に対して自分なりに考え答えを出し、その理由を人に説明する』というプロセス自体が子供たちの大きな成長に繋がるのです。

育脳トライアル以外でも、「伝えるノート」では与えられたテーマや語句を用いながら相手に伝わる文章を書く練習をします。

ことばのワークは語彙力を向上させつつ要点をまとめる練習や、自由な発想で空欄を埋めていく問題があります。

これらの問題は一見「遊び」のように見えることもあり、中には「こんな取り組みをしていて、本当に成績が上がるの？学力の向上に繋がるの？」と感じている保護者さんもあるかもしれませんが、実は企業が本当に求めている“思考力の土台”を育てる重要な取り組みなのです。

だからこそ、教科のテストで点数が良かったからといって「この子は将来安心」とは限りません。

逆に、今は成績が伸び悩んでいても、思考の柔らかさや工夫力、遊び心が育っているなら、将来の伸びしろは十分あります。

成績だけで「安心・不安」  
は決められない時代へ

かつての日本には、「成績が良ければ良い大学に行ける。良い大学に入れば安定した会社に就職でき、年功序列・終身雇用で一生安心」という“昭和の価値観”がありました。しかし、まずはこの考え方を一度手放す必要があります。

先述の通り、今は成績が良いことが“良い企業に入れる安心材料”とは言えなくなりました。また、大企業であっても数千～数万人規模のリストラを行いますし、安定の象徴だった公務員でさえ、約4割が非正規雇用という現場もある状況です。

もはや、社会に「絶対的な安定」は存在しません。

もちろん、成績は大切です。基本的な学力は、社会で生きるための“土台”となるからです。しかし、点数とはあくまで「今の理解度」を示す指標に過ぎず、「将来の成功」を保証してくれるものではありません。

これから子どもたちが向き合うのは、“AIが得意になる領域はAIに任せ、人間にしか生み出せない価値を創り出していく世界”です。

育脳寺子屋は塾として、もちろん知識面の学習サポートには全力で取り組みます。しかし同時に、AI時代に必要とされる力を小さな頃からじっくり育てていきたい・・・その思いで教室づくりをしています。

これからも子どもたちの“未来の伸びしろ”を、保護者の皆さまと一緒に育てていきたいと考えています。今後ともその『共同作業』へのご協力をお願いいたします。